

# 令和元年度留萌地区の研究活動

研究副部長 苫前町立古丹別小学校  
校長 石田正樹

## 1. はじめに

留萌管内小中学校長会では、新学習指導要領での教育の充実を図るために、「カリキュラム・マネジメント」に焦点を当てた前研究を踏まえ、今年度「社会に開かれた教育課程の実現を図る校長の在り方を究明すること」をねらいとする新しい研究をスタートさせた。

8月に開催した管内校長会教育研究協議会では、研究部が作成した「研究の手引き」をもとに趣旨説明を行い、研究協議を通して各校の取組や課題を交流し、研究の方向性や内容について理解を深めた。また、留萌教育局義務教育指導監 西村聡様を講師に迎え「社会に開かれた教育課程の実現を目指して」を演題に、豊富な経験に裏打ちされた貴重な講話を拝聴し、研究を推進していくための多くの示唆をいただいた。



◇ 8月6日 留萌管内校長会教育研究協議会 ◇

## 2. 活動計画

### (1) 研究主題・副主題

- 研究主題「新しい時代を創造し、豊かに生きるための確かな力を育む  
小中学校教育の推進」
- 研究副主題「社会に開かれた教育課程の実現を図る校長の在り方」

### (2) 研究推進の重点

- ① 新学習指導要領の基本理念は、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を「社会に開かれた教育課程」によって着実に育成することである。そのために、校長として「社会に開かれた教育課程」をどう捉え、どのように学校現場で実践するのかを検証し、校長個々の職能向上を図る。
- ② 本年度の研究協議会は、新たな研究の方向性を確認するとともに、共通理解をもって今後の研究の見通しを確かなものとする。研究推進については、各市町村校長会の研究を基盤とした研修活動を充実させ、その成果を管内校長会の財産として積み上げていく。
- ③ 令和元年度道中研究大会提言プロジェクト委員会の活動を充実させる。また、令和2年度道小提言プロジェクト委員会を立ち上げ、研究推進に努める。
- ④ 研究集録「和心一統」第50号を発刊し、研究の成果と校長会の足跡を記録に残す。
- ⑤ 道小・道中研究部、各市町村研究部及び関係機関との連携の強化に努める。
- ⑥ 留萌管内研究団体連絡協議会の会長・事務局長として、各種研究会の連絡調整に努める。

## 3. 研究活動

### (1) 3か年継続研究計画の推進

新たな継続研究の初年度は、前次研究で取り組んできた「カリキュラム・マネジメント全体構造図」に基づく学校改善・学校創造の取組を引き継ぎながらも、学習指導要領が目指す

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「カリキュラム・マネジメント」の充実を図るための校長の在り方について、研究の方向性や内容の具現化、実践化を図りたい。

## (2) 第67回留萌管内小中学校長教育研究協議会の開催

- ① 期 日：令和元年 8月 6日（火）
- ② 会 場：小平町文化交流センター
- ③ 内 容：研究に関する趣旨説明、講話、道中提言発表、研究協議（グループ討議）

### □講話

「社会に開かれた教育課程の実現を目指して～カリキュラム・マネジメントの充実～」

留萌教育局義務教育指導監 西村 聡 様

学習指導要領改訂の方向性やこれからの社会「Society5.0」、新学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」、カリキュラムデザインの考え方、学校組織として取り組む「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善など、これからの学校改革や授業改善の在り方について、スライドを使い、留萌管内の各学校の取組も交えながら示唆に富んだ講話をいただいた。

### □研究協議（グループ討議）

5つのグループに分かれ、研究に関する趣旨説明と義務教育指導監の講話を受けて、「研究の手引き」に関わり、①「社会に開かれた教育課程」の実現を図る校長の在り方、②自校及び管内における「カリキュラム・マネジメント」推進、の2つの視点に沿って協議を行った。

## (3) 第61回北海道中学校長会研究大会空知・岩見沢大会の提言発表

□第4分科会「自らの生き方と社会性を育む教育の充実」

□研究発表「授業改善を目指した職員の意識改革と組織力向上の取組から」

提言者 留萌市立港南中学校長 大井 学

## (4) 提言プロジェクト委員会の開催

令和元年度北海道中学校長会教育研究大会空知・岩見沢大会第4分科会の提言発表に向けて前年度から数回に渡り会議を重ね大会を迎えた。また、来年度の北海道小学校長会教育研究オホーツク大会第8分科会の提言発表に向けて準備を進めている。

## (5) 新任校長研修会への参加

管内校長会では「新任校長研修会」を実施し、研究部からは部長が参加。校長会の活動の中核とも言える研修・研究活動の重要性や組織体制について説明し、校長の在り方や学校経営、校長会との連携・協力などについて、新任校長と共に考えた。

## (6) 各種研究会への参加・還流

各種研究会への参加報告は、校長会報「留萌」や研究集録「和心一統」に掲載し、還流を図っている。

## 4. おわりに

新たな研究を立ち上げた今年度の研究協議会は、研究主題や研究内容についての理解や検討・協議をする機会とし、「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」についての講話を行うなど、例年とは違った内容で実施した。会員からは「研究内容についてグループ協議でより進化させることができた」との感想もあったが、「研究内容や研究推進等について協議・検討するだけの開催ではもったいない」「研究計画は研究部でしっかり設定し、協議会は研究内容そのものを議論していく場にすべき」などの意見もあった。今年度の研究協議会を起点とし、留萌教育の充実・発展に資する校長会の研究・研修はどうあるべきかを問いつつ、実りある研究・研修となるよう一層充実した研究活動を推進していきたい。